



京葉ガス株式会社

業務効率向上と電子文書管理・流通の標準ツールとしてADOBE® ACROBAT®を大量導入

京葉ガス株式会社

<http://www.keiyogas.co.jp/>

所在地

〒272-8580

千葉県市川市市川南2-8-8

概要:

1927年に設立された京葉ガスは、千葉県北西部の市川市、松戸市、鎌ヶ谷市、浦安市、船橋市、柏市、流山市、白井市など約85万件のお客さまにクリーンなエネルギーである都市ガスをお届けしている。2007年に中期経営計画『「ほっと、人、あんしん。」プラン2010』を策定し、お客さまや社会から信頼され、選ばれ続ける企業「お客さま満足度NO.1 エネルギー事業者」の実現に向けて取り組んでいる。



京葉ガス株式会社
情報システム部 運用管理グループ
ITインフラチームリーダー
山口喜正氏



京葉ガス株式会社
情報システム部 運用管理グループ
ITインフラチーム係長
山本康彦氏



京葉ガス株式会社
情報システム部 運用管理グループ
ITインフラチーム
松本真沙樹氏

ビジネスの活動に伴ってドキュメントは次々に発生し、ファイル管理の煩雑さやファイルサーバの容量は増大する一方だ。また、社内外との電子文書によるコミュニケーションには、クオリティの確保や情報漏洩リスクへの対応も求められる。そこで京葉ガス株式会社では、業務効率向上やセキュリティ向上などに役立てるために、Adobe Acrobat 9 Standardを260ライセンス導入して、全社的な電子文書の管理・流通の標準ツールとして活用している。

業務効率向上の一環として文書管理・流通の標準化に取り組む

京葉ガスは首都に隣接した千葉県北西部を営業エリアとすることで発展を続けてきている。しかし、景気低迷を背景とした住宅着工件数の減少やオール電化の攻勢など、ガス業界を取り巻く環境は厳しさを増している。

そこで同社では、新たな中期経営計画『「ほっと、人、あんしん。」プラン2010』を策定し、さらなる経営効率化を推進。経営体質の強化を図り、ガスの安定供給や保安の確保、サービス向上によるお客さま満足度向上を目指した取り組みを行っている。

また、情報システム部では業務効率向上の一環として、2009年12月、Adobe Acrobatを導入し、文書管理・流通の標準化に取り組んでいる。

PDF文書の増加に伴いバラバラに導入されたPDF作成ソフト

情報システム部 運用管理グループITインフラチームリーダー 山口喜正氏が初めてAdobe Acrobatに出会ったのは約10年前のこと。当時、ガス業界の設計環境は紙の図面からCADに移行する過渡期だった。互換性のあるCADソフトを利用している取引先とはCADデータのやり取りができたものの、互換性のないCADソフトを利用している取引先とは依然として紙の図面のやり取りだったという。

「当時、私はガス工事の設計を担当しており、CADの設計データをPDF化するためにAdobe Acrobatを使い始めました。データをPDF化することで、互換性のないCADソフトを利用している取引先や、CADソフトを利用していない取引先でも図面を閲覧できるようになっただけでなく、PDFデータは軽いのでメールで送信できるので、私が担当していた取引先への図面提出の負荷が軽減されました」（山口氏）

その後、山口氏は情報システム部に異動し、全社的なIT活用や運用について担当することになる。同社では、全利用者が使う業務ソフトは標準ツールとして情報システム部が一括導入・管理しているが、CADソフトやPDF作成ソフトなど一部の部署が使うソフトは各部門が導入することになっていた。

その結果、年々PDF作成ソフトの導入率が上がるにつれ、部門によってバージョンやメーカーがバラバラになり、部署を異動すると使い勝手が変わるため業務効率が落ちる、などという弊害も目立つようになってきた。そこで情報システム部では、2009年7月に社内アンケートを実施し、PDF作成ソフトに関する使用実態と要望についての回答を得た。アンケートからは、改ざん防止、ファイル容量縮小、互換性のないデータの共有などの理由から、PDF作成ソフトのニーズが高まっていることが明らかになった。

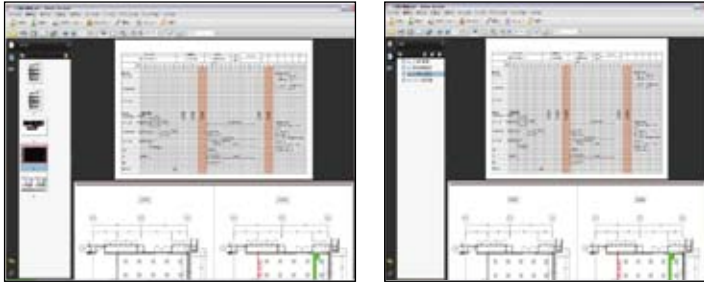
文書管理・流通の標準ツールとしてAdobe Acrobatを導入

この背景には、一部の官公庁などでは紙の文書ではなくPDF文書提出が義務づけられていることに加えて、民間企業でもPDF文書の利用が拡大していることがある。その結果、設計や管理部門だけでなく工事や営業などの部門でも、PDF作成ソフトを使用する機会が増えていた。

アンケート結果からは、各部門で安価なPDF作成ソフトを導入していたため、データをうまくPDFに変換できない、無償で利用できるAdobe Readerでうまく閲覧できない、1ページにしたつもりが2ページになってしまうなどの問題があり、信頼性や業務効率の面で苦労していることが浮き彫りになった。ちなみに、同社では従業員等に貸与された約1,360台のPCにAdobe Readerがインストールされ、約1,300人が利用しているという。

「アンケート結果を考慮して社内で検討した結果、PDFフォーマットの開発元であるアドビ システムズが提供するAdobe Acrobatであれば、Adobe Readerとの高い親和性に加えて、信頼性・





京葉ガスではAdobe Acrobat 9 StandardをPDF作成の標準ツールとして活用。あらゆる文書をPDF化することで業務効率の向上と同時にデータ容量の削減を目指している

機能性・高品質の面で優れているので、文書管理・流通の標準ツールとしてAdobe Acrobatを採用することにしました」(山口氏)

PDF作成ソフトの導入は部門任せという従来の方針を変更して、2009年10月、Adobe Acrobat 9 Standardの260本のライセンス導入を決定。ライセンス導入では、ライセンス管理、コンプライアンス対応に最適なCLPで購入した。Adobe Acrobatの使用を希望する利用者はWeb上で申請し、情報システム部が各自にインストールCDを配布する方法をとった。ネットワーク上からのインストールも可能だが、セキュリティ面から一般利用者には管理者権限を付与していないため、CD配布という方法が採用されたのである。

「導入に際しては、アドビ システムズにお願いして、70～80人を対象にしたトレーニングを2日間、3回に分けて実施していただきました。Adobe Acrobat早わかりガイドに沿って研修を行い、利用者全員に早わかりガイドを配布したおかげで、操作に関してほとんど問い合わせはありませんでした」と、ヘルプデスクを担当した情報システム部 運用管理グループITインフラチーム 係長 山本康彦氏は話す。

将来のペーパーレス化を睨んでAdobe Acrobatの習熟度向上に取り組む

2009年12月の導入から日が浅いため、Adobe Acrobatの本格的な導入効果が明らかになるのはまだこれからだが、Adobe Acrobatの活用と運用の両面で早々にメリットが得られたという。

活用面でのメリットは、「さまざまなデータ形式の文書をPDF化することで、社内外とのやり取りがよりスムーズになったことです。また、不用意に変更されたくない文書についてはPDFにセキュリティを付け、編集やコピーなどに制限を設けることによって、改ざん防止などに役立っています。加えて、一部のユーザーは、これまでバラバラに提出していた文書をPDFに一本化したり、しおりを追加することで、よりわかりやすくなったPDFを作成しています。このように、Adobe Acrobatの機能を有効に活用することで、今後も多くの効果が期待できると考えています」と、情報システム部 運用管理グループ ITインフラチーム 松本真沙樹氏は続ける。

また、運用面でのメリットとしては、「以前は、各部門でPDF作成ソフトを購入していたため、ライセンスキーの確認やバージョン管理に時間がかかっていました。今はアドビ ボリューム ライセンスプログラムによりライセンスキーを一元管理できるだけでなく、バージョン管理などの運用負荷が大幅に減りました」と、山本氏は話す。

同社ではPCの外付けハードディスクを禁止しており、17部門で作成された公開可能なドキュメントやCADデータ、そして個人が作成した文書を、全社統合ファイルサーバで集中管理している。また、Adobe Acrobatはデータ圧縮機能に優れているので、年々増加するデータ容量への対応策としても期待されているという。

「利用者がさまざまな用途のドキュメント類を必要に応じPDF化することで、メールサーバやファイルサーバのリソースが有効に活用できると想定しています。また、利用者がAdobe Acrobatの操作スキルに熟練すれば、PDFを活用したペーパーレスレビューや、PDFを編集・再利用することによるドキュメント作成時間の短縮なども実現しますから、これらがTCO削減へつなげることを期待しています」(山口氏)

Adobe Acrobat による主な利点

- Adobe Readerとの互換性に加え、信頼性・機能性・品質面において優れている
- ライセンスキーの一元管理で管理負荷を軽減できる
- 改ざんの脅威に対してセキュリティ設定で対応できる
- 互換性のないデータもPDF化することにより誰もが閲覧・確認が可能になる
- 複数の文書をまとめられるので管理が容易になる
- データ容量を圧縮できるのでファイルサーバの負荷を軽減できる
- PDFを編集・再利用することでドキュメント作成時間を短縮できる

使用した製品

- Adobe Acrobat 9 Standard
- Adobe Reader 9

製品に関する詳細は

<http://www.adobe.com/jp/products/acrobat/>をご覧ください。

お問い合わせ先

アドビ製品は、お近くのアドビ認定ディーラー (AAD: Adobe Advanced Dealer) でお買い求めください。AAD リストをはじめとする最新情報は、アドビ システムズホームページ (<http://www.adobe.com/jp/>) で入手してください。アカデミック版および教育機関向け販売プログラムに関する詳細は、アドビアカデミック コールセンター (tel.03-5350-7133) へお問い合わせください。

「Adobe Acrobatは、Adobe Readerとの高い親和性に加えて、信頼性・機能性・高品質の面で優れているので、文書管理・流通の標準ツールとして採用することにしました」

京葉ガス株式会社
情報システム部 運用管理グループ
ITインフラチームリーダー
山口喜正氏